

第三者意見

関東学院大学 経済学部
准教授 小山 巖也氏



今年のCSR報告書でも、モノづくりのメーカーであること、事業分野が最先端技術の電子部品の製造装置業界であることを踏まえた「人が活きるCSR」への取り組みが記載されています。そして、環境問題、社会問題に関する取り組みに焦点が当てられ、具体的にはCO₂を削減することと従業員を大切にすることが基本課題として表明されています。と同時に、企業を取り巻くステークホルダーとの関係をも大切にしようとする意識が見て取れます。

このCSR報告書の全般的な特徴は、①コンパクトな分量にもかかわらず、必要事項が過不足なく記載されていること、②「目標と実績」に象徴されるように、PDCAサイクルを意識した形で報告がなされていること、③基本的な方針や体裁がぶれることなく、経年変化が読み取りやすいことの3点に集約できるかと思います。その上で、今年の報告書では以下の3つの改善点が見られます。

第1は、「トップメッセージ」が「会社概要」「製品紹介」よりも前のページに移ったことです。まずは、トップの思いを伝えようという姿勢は大いに評価できます。どういう思いで事業活動、CSR活動が行われているのかが最初にわかっていた方が、それ以降の報告内容をよりよく理解することが出来るからです。まさに、顔が見えるCSR報告書になっています。

第2は、「従業員とのかかわり」の部分で、現在、育児休職中の従業員の方の声を載せていることです。読み手にとっては制度の意義が頭ではなく心で理解することが出来ますし、育児休職中の方にとっても会社とつながっているという思いを持つことが出来ます。イラストの雰囲気も良く、やさしさを感じますね。これこそが「人が

活きるCSR」だといえるでしょう。

第3は、全体的に、ビジュアル化が着実に進んでいることです。文章だけではわかりにくいことを、図表や写真を用いることで、実感を持って理解できるよう工夫されていると感じます。例えば、「調達取引先とのかかわり」では、2008年度の「グリーン調達に関する協力合意書」の締結率の状況が表にまとめられています。

このように、今年もCSR報告書の作成に際して、地道な改善活動が続けられていることが良くわかります。

他方で、次のような点については、検討の余地があるように感じます。

第1に、「経済性報告」があまり生きていないという点です。グラフを並べるだけになっていますが、1ページあるのだとすれば、簡単な解説が書かれていた方が親切に感じます。

第2に、全般的にやや具体性を欠く記述が散見されるという点です。例えば、「お客様とのかかわり」のCSアンケートの結果についても、具体的にどのような声があったのかをいくつか載せると、よりイメージしやすくなると思います。

第3に、昨年の報告書において、地域住民とのコミュニケーションを図りたいと表明されていましたが、あまりその部分が改善されているようには見えないという点です。昨年の第三者意見でも、地域社会からの声を掲載してはどうかとの提案がありましたが、例えば、事業所見学に来た小中校生や先生方の声を掲載するのも一つの方法だと思います。担当者の方にお話を伺った所、夏祭りや事業所周辺清掃など、かなり積極的に地域社会との交流を図っておられることが良くわかりました。そうした活動のCSR報告書の中でのアピールの仕方についても、もう少し工夫をされてはいかがでしょうか。

全体を通じて、真面目に、誠実に作られているCSR報告書だと感じます。こうした基本姿勢は維持しつつ、さらに読者としての多様なステークホルダーを意識した形で、表現方法を改善していただけると、より良いCSR報告書になるのではないかと感じています。

第三者意見を受けて

芝浦メカトロニクスグループのCSR活動の内容を多くの方に知っていただきたいと考え、できるだけわかりやすく報告書としてまとめました。関東学院大学の小山先生から具体的かつ貴重なご意見・ご指摘をいただきました。今後当社グループのCSR活動の展開に活かしていきたいと思えます。

また、昨年の報告書に対して一般の読者の方々からも貴重なご意見をいただきました。ここにお礼を申し上げるとともに、今回の報告書に対しても、忌憚のないご感想・ご意見等をお寄せくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。